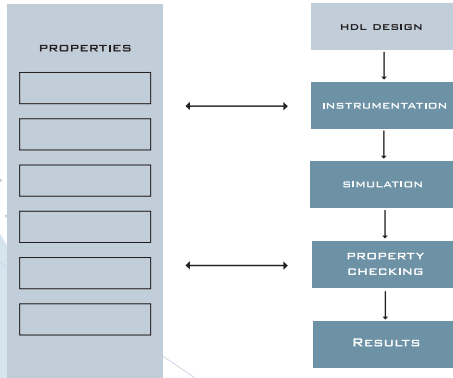


VN-PROPERTYDX™

DYNAMIC PROPERTY CHECKER

ハイライト

- プロパティをシステムレベル・シミュレーション時に検証
- 期待、禁止動作共に統一されたプロパティ・カバレッジ
- 標準インターフェイス用定義済みプロパティ
- Accellera標準スเปック言語Sugarによるプロパティ定義
- 処理が重複している複雑なテンポラルプロパティも容易に作成可
- 設計の内容についてIP開発者、IPユーザ間の意志疎通を容易にする
- どのシミュレータ環境にも容易に統合可能



イントロダクション

システムオンチップ(SoC)設計は複雑化し、エンジニアの生産性を高めるために設計の再利用が必要とされています。

今日の最先端設計は”Sea of IP”と言われる内製、外部で既に検証されたIPコアの集合体です。

この設計スタイルはIPブロック間や集積されたシステム環境の中でキーとなるIPを検証する際のインターフェースの検証の様な、新しい設計への挑戦をもたらします。これはIPユーザやシステム・インテグレータが常に設計中のコアの詳細動作を知っているわけでは無いと言う事とあいまって難しい挑戦となります。

複雑なシステム検証を加速

TransEDAのVN-PropertyDX™ダイナミック・プロパティ・チェッカーはフォーマル検証とシミュレーションとのギャップを橋渡しし、IPベース設計に新しいアプローチを提供する事により、設計検証に革新的なビジョンをもたらします。

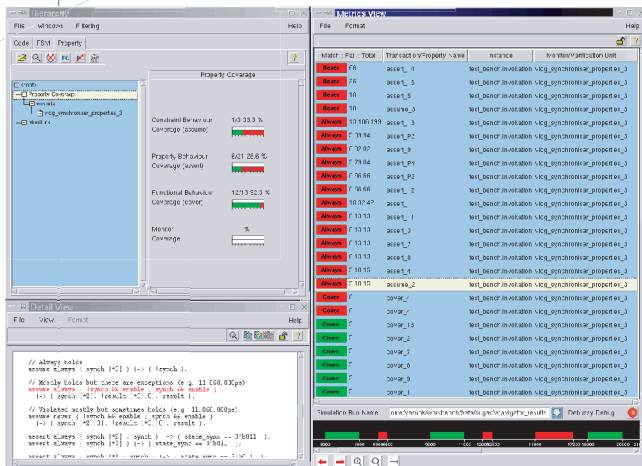
VN-PropertyDXはTransEDAから提供される検証言語で記述された設計内容をRTLと比較する、プロパティ検証のツールシリーズの第一段です。プロパティは通常、フォーマル検証時に使用されますが、VN-PropertyDXはそれをシミュレーション時に使用することを可能としました。プロパティは検証の異なるレベルのインテグレーション、一つの設計から他の設計へと再利用を可能としました。またそれはIP開発者からIPユーザへの設計内容を伝える有効な手段です。

ブロックレベルからシステムレベルの首尾一貫した結果は複雑なIPベースの設計検証を加速します。

検証されていない動作を検出

VN-PropertyDXは効率的なテスト開発の指導をし、カバレッジ・クロージャを進めます。

VN-PropertyDXはどの定義された動作がまだ検証されていないのかの詳細なレポートを生成し、エンジニアに検証していない箇所にフォーカスしたテストを作成することを可能とします。



VN-PropertyDX はシステムシミュレーション時にプロパティを検証します